

パパイヤ養液土耕栽培の汎用化技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(独)国際農林水産業研究センター沖縄支所 小沢 聖

2 研究期間

2003～2005年度(3年間)

3 研究目的

沖縄では台風と冬の低温被害軽減のためパパイヤ生産に施設が不可欠だが、土壌病害が蔓延する、屋根に直ぐ達して生産性が低い等の理由から施設栽培は定着していない。この対策として、石垣島の農家が矮性品種を鉢で隔離する養液土耕栽培技術を開発し、石垣市が特許出願したが、開発過程で科学的手法を取らなかったために勘に頼る管理が多く、普及には至っていない。そこで、この技術を科学的に検証し、汎用性の高い栽培管理技術を確立する。

4 研究内容及び実施体制

汎用化技術の開発((独)国際農林水産業研究センター沖縄支所、沖縄県農業試験場八重山支場)

季節ごとに培養液の濃度と供給量の影響を解析し、適正な培養液管理技術を確立する。低温・高温対策技術を強化するために、冬の時刻別土壌加温、夏の遮光・細霧冷房等の効果を評価する。

栽培管理指標の選定と汎用化技術の評価(石垣島養液栽培研究会、(独)国際農林水産業研究センター沖縄支所)

これまで農家が栽培管理指標としてきた生体反応が発現する要因を解析し、指標としての有効性と利用法を評価する。また、汎用化技術を農家の栽培に導入し、有効性を評価する。

収益性評価と技術定着条件の解明(石垣市農林水産部)

農家での調査から収益性を評価する。また、本技術導入の意向、その条件を多業種を対象にアンケート調査する。さらに、モデル人材を生産農家で雇用し、重点的に必要な習得技術を評価する。

5 目標とする成果

パパイヤの汎用的な養液土耕栽培技術が確立され、普及のための条件が明らかになる。これにより、パパイヤの施設栽培の普及拡大が期待される。